

神山天文台マスコットキャラクター
ほしみ〜るちゃん®

Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3 オープンキャンパス 施設見学 10:00-16:00
4 オープンキャンパス 施設見学 10:00-16:00	5	6	7	8	9 企画展最終日	10 × 伝統的七夕
11 × 山の日	12 × 振替休日	13 ×	14 ×	15 ×	16 ×	17 ×
18 ×	19 ×	20 ×	21 ×	22 ×	23 ×	24 天文学講座 16:00-17:00
25 ×	26	27	28	29	30 ×	31 ×

施設見学 9:00～16:30
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30～17:30

天体観望会 19:00～21:00
(定員あり/要予約)

× 休館日

月の形 (満月・新月・半月および
観望会で月が見えるとき)

事務室閉室日
(問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階常設展示フロアでは企画展「太陽系のお天気」展(5/7～8/9)、また、3階では荒木望遠鏡(国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡)の見学が可能です。(常設展は企画展期間中休止しています)

天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。
また、宇宙の3D映像上映会を開催します。(10、17、31日は大学一斉休業のため休止)

よくある質問?

観望会でよく聞かれる
質問にお答えします★

① 荒木望遠鏡で「流れ星」は見えるの?

望遠鏡は狭い範囲を拡大するため、たとえば天の川の中にある目に見えない暗い星を見ることなどは得意なのですが、流れ星はいつ、空のどこに流れるかわかりません。望遠鏡を向けている先に偶然流れることもあるかもしれませんが、それを待つのはとても効率が悪いです。流れ星は道具を使わず、「街明かりの少ないところ」で「空のできるだけ広い範囲」を「なるべく長い時間」眺めるのがおすすめです!

② 伝統的七夕(旧暦七夕)ってなに?

七夕といえば、7月7日。しかし、日本で明治6年まで使われていたカレンダーは、月の満ち欠けを基にしたもの(旧暦や太陰太陽暦といいます)でした。現在のカレンダーとは毎年日付がずれてしましますが、七夕や十五夜のお月見の行事などは、月の形が合う旧暦で行う方がより風情が出ますね。旧暦七夕は必ず月齢6のころになり、上弦前の月が天の川の渡し舟に見立てることもできます。今年の伝統的七夕は8月10日です。

③ 天の川って、どんな川?

天の川は、「川」という文字が入っていますが、水が流れているわけではありません。天の川は、星の大集団です。17世紀に、ガリレオ・ガリレイが初めて望遠鏡を向けて、星の集団だということを発見しました。月明かりのない晴れた夜に、街明かりの少ない星がよく見えるところに出かけると、きっと天の川を見つかることができます。夏は、天の川が見やすい季節です。街明かりの少ない場所へ天の川を探しに出かけてみてください。

企画展

太陽系のお天気展 開催中～8月9日(金)まで開催!

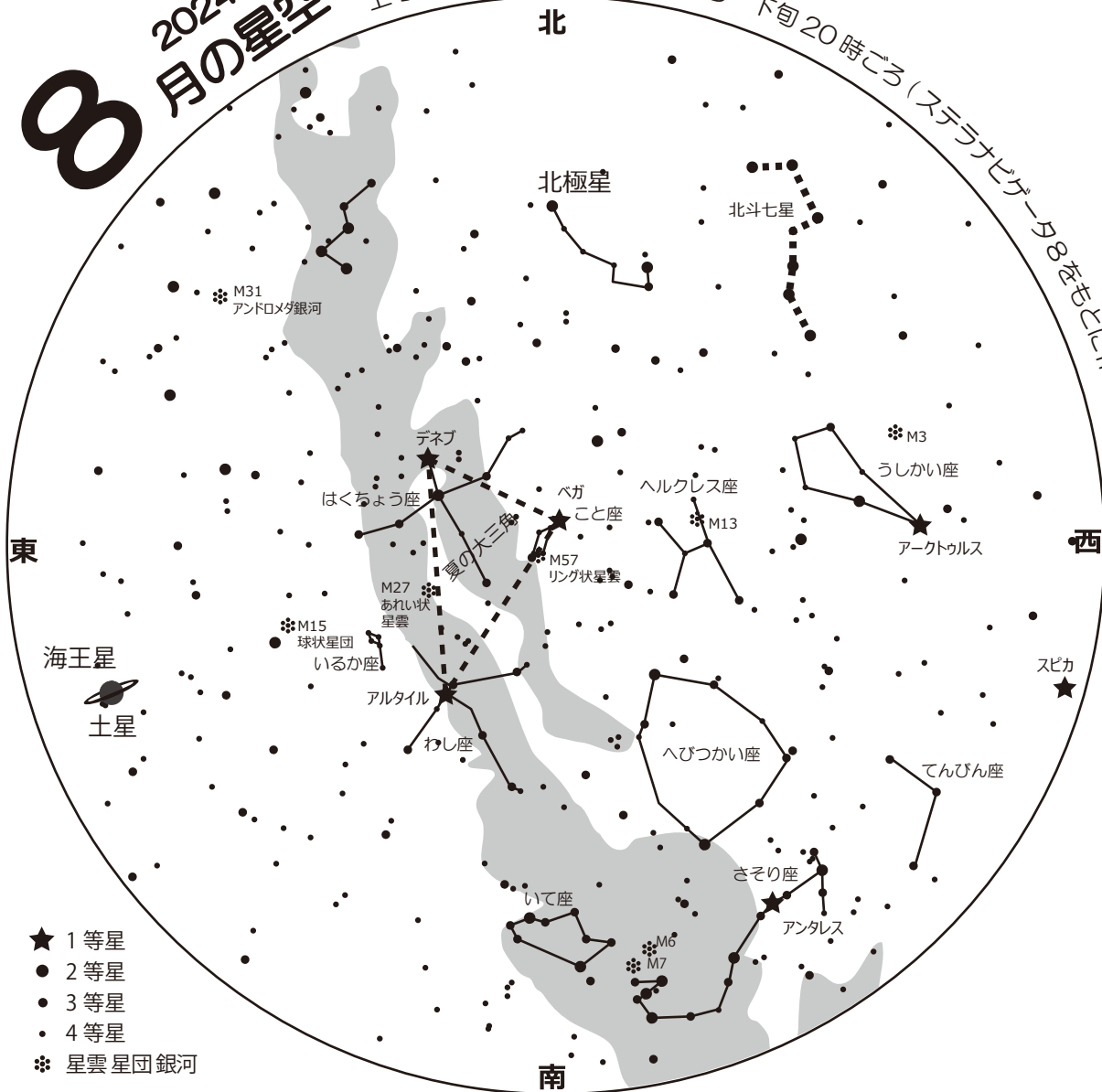
太陽系には8個の惑星があり、その環境はさまざまです。それぞれの惑星のお天気を比べてみます。また、太陽の活動と関係の深い宇宙天気についても紹介します。

この展示は、明石市立天文学科学館 2/3～4/7で開催されていた特別展を巡回するものです。特別展の担当学芸員は、本学理学部 宇宙物理・気象学科の卒業生(令和2年卒業)です。また、神山宇宙科学研究所が協力しており、金星や火星の気象学を専門とする高木 征弘教授、佐川 英夫教授、安藤 紘基准教授、小郷原 一智准教授(全て本学理学部)が展示内容の監修を行いました。



2024年 8月の星空

上旬 22 時ごろ 中旬 21 時ごろ 下旬 20 時ごろ (ステラナビゲータ 8 をもとに作成)



8月12日真夜中 ペルセウス座流星群が極大

毎年8月お盆の時期に極大を迎えるペルセウス座流星群は、毎年安定して流星が見える、3大流星群の1つです。今年は8月12日の23時頃に極大（ピーク）を迎え、月明りもほとんどなく、好条件と言えます。放射点が高く昇る8月13日夜明け近くが最も多くの流星が見られると予想されています。「街明かりの少ないところ（周囲の安全に注意!）」で「なるべく空の広い範囲（寝転ぶのおススメ!）」を「長い時間（夏休みだから一晩中OK!?）」眺めていると、多くの流星に出会えるかもしれません。また、極大日の前後数日も流星は流れます。天気の良い日を狙って楽しんでください。

2024年8月 見ごろの天体

★夏の三角形（なつのだいさんかく）：The summer triangle

はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイル、こと座のベガの3つの明るい星を結んで描かれる大きな三角形は夏の三角形と呼ばれています。ベガとアルタイルは、七夕の伝説における「織姫」と「彦星」です。

★二重星（にじゅうせい）：Double star

重星は、肉眼で見ると1つの星ですが、望遠鏡で見ると2つの星に見えます。夏に見られる代表的な重星には、はくちょう座のアルビレオ（金色と青色の2つの星が寄り添って見える）、さそり座のβ星（爽やかな青いペア）があります。こと座には、二重星がさらに2つずつの二重星となっている、ダブル・ダブル・スターと呼ばれる星もあります。

★惑星状星雲（わくせいじょうせいうん）：Planetary nebula

太陽程度の重さの恒星は、一生の最後に水素ガスを使い果たして赤色巨星となった後、外側のガスを周囲に放出します。この放出されたガスが輝いて見えるのが惑星状星雲です。望遠鏡で見たときに、まるで惑星のように丸くほんのり色づいていることから、このような名前がついています。こと座にはリング星雲と呼ばれる惑星状星雲 M57 があり、望遠鏡で見るとドーナツのような形を見ることができます。

★球状星団（きゅうじょうせいだん）：Globular cluster

球状星団は、数十万の恒星の集まりです。私達の銀河系の中には、約150個の球状星団があり、球状星団の中の星たちは非常に高齢で、100億歳以上の星もたくさんあります。夏には、ヘルクレス座の M13、りょうけん座の M3、へび座の M5 などの球状星団が見られます。

★赤色巨星（せきしょくきょせい）：Red giant

恒星は、一生の大部分は安定して輝く時期（「主系列星」と言います）が続きます。しかし、恒星の内部の水素を使い果たすと、恒星は自身の重力で縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。膨張すると表面の温度が低くなるため赤色に見えます。夏には、うしかい座のアークトゥルス（直径は太陽の約20倍）やさそり座のアンタレス（直径は太陽の約600-800倍）が見られます。